**私の歩む道**

**織田修平**

**長いようで短い１年が終わりました。ゴーバルでの日々、桝本家での生活では本当にいろいろなことがありました。楽しい時もつらい時もありましたが、すべてひっくるめていい時間でした。笑い声が絶えない職場。みんなで食べるおひるごはん。食器洗いじゃんけんではいつも大はしゃぎ。忙しい作業を忘れるかのようにゆったりとした休憩時間などなど。ゴーバルならではのものを味わうことができました。僕はいろんな人に囲まれながら、命が食べ物に変わっていく過程を体験できて本当にありがたかったです。桝本家での生活もとても楽しく、僕にとって癒しの場でもありました。「神様、みんなでいただくご飯をありがとうございます。」という簡単なお祈りで始まる食事の時間は、なんだか幸せだと感じました。子供たちともたくさん遊び、いつも元気をもらっていました。また、桝本家ではたくさんの人と生活しました。そこから共に暮らすことの素晴らしさと大変さを実感した１年でした。辛いことも多かったです。専攻科じたいに、また将来の自分に焦りのプレッシャーと不安を感じ、思うようにみんなとかかわれなかった時、部屋に閉じこもってしまった時、自分の居場所づくりにつかれた時、思い出を振り返る余裕がなかった時、自分のことや人間関係のことばかり悩んでいた時がありました。一緒に生活した進さん、尚子さん、月見ちゃんにはもちろん、ゴーバルの皆さんには本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、ゴーバルと桝本家はそんな僕を一人の大切な人として受け入れてくれた場所でした。時には黙って見守り、時には話を聞いてくれました。僕は、皆さんからたくさんの愛をもらいました。暖かい空間で専攻科生活を送れてよかったです。**

**僕は、たくさんの種をもらいました。そこから気づいたことがたくさんありました。まだ土の中に眠っていますが、２つだけ共有させてください。１つ目は、コミュニティについて。僕の専攻科のテーマでもあったコミュニティ。今までのコミュニティは、人がたくさん集まるところ、言葉を交わすところ、同じ方向を向いている人だけで、何か大きなことをするところというイメージでした。また、コミュニティは作っていくものだとも思っていました。でも、ゴーバルと桝本家で過ごし、話を聞いたりする中で、コミュニティのイメージが変わりました。今思っているコミュニティは、人の数は関係なく人と人が平等な立場で向き合い、いろんなことを気楽に分かち合えるところ、言葉だけではなくいろんな手段でコミュニケーションするところ。また、作るものではなくそのうちできていくものだということ。ぼくは、コミュニティの土台になることなどを質問したことがありました。今思うと、とても窮屈な質問でしたが、かえってきた答えは「そんなの、分からない。あまり考えなくてもいいんじゃない？」という、シンプルだけどなんだか懐の深い答えでした。今まで僕は、答えばかり求めてきました。しかし、この答えとみんなの暮らしを見て、自分でどうこう決めて実現するものでもないことに気づきました。また、あんまり考えなくてもいいんだという安心感がうまれました。また、この気づきをもとに人生について考えた時、ふと思いました。樹に似ているなぁー。樹のように生きていこう。と。自分という存在や神様、与えられた場所、自然という根っこを張り、伸ばしながら、いろいろなものを見て、経験し、いろんな人と出会い、自分の弱さなどを知って少しずつ幹も伸ばし太くしていく。今僕は、ここにいます。これからは、つながりができたり、自信についたりすることで、少しずつ枝を伸ばしていき、最後に、その結果として大きな緑ができる。この緑にコミュニティがあること、本当に大切なものに出会えることを信じたいです。**

**二つ目の種は「わからない」も素敵な答えだということ。僕は、はっきりとした答えを求めてしまったり、こうでなくてはだめというような決めつけに走ってしまったりする傾向があります。しかし、そうすると周りを受け入れられなかったり、焦りが生じて不安に駆られたり、懐が浅くなっていくだけだと気づきました。わからないものはわからないでいい。今ぼんやりしていることをはっきりさせなくてもいい。焦る必要な全くない。と思うことで周りを受け入れられたり、物事を柔軟に考え、これでいい。と思えたり、今を生きることが何より大切なことなのかわかるかもしれないと、自分の中で理解しました。いい意味で適当に生きる。これは大切なことだと思いました。「成るようになる」みなさんが口にしていた言葉です。物事は自然のなりゆきに従うもので、人為でどうこうなるものではないという意味ですが、ゴーバルの人たち、ゴーバルの姿を見て納得しました。農業も本当はこうあるものだと思いました。また、「善きことはカタツムリの速度で動く」というガンジーの言葉。本当に大切なものや善いことはすぐにはやってこない。だから、今から焦って不安に思わなくてもいいというメッセージ。わからなくてもいいという大切な気づきがあったからこそ、胸に刺さり、自分のものになった気がします。この専攻科で、僕は人生の勉強ができたと思います。また、そう思えて本当にうれしいです。**

**自分は、将来何をしているのか、何で生計を立てるのか全く分かりませんが、ぼくには目指したい暮らしがあります。それは、豊かな暮らしです。僕も含め、今の人々は、お金に支配されていると思います。効率のよさばかり求めていると思います。気が付いたら、そう考えてしまっています。もちろん、生きていくにはお金はなくてはならない存在です。家族を持つという意味でも必要になってきます。農業においても効率よくやることが求められる場面が多いです。世の中もそういう流れになってきている気がします。でもその中でも、自然にあるものや身の回りにあるものに目を向けたり、静かに鳥の音を聞いたり、子供のように小さなことに喜びを感じることが豊かな暮らしにつながると思います。これからはいかに楽しく生きるかを考え、暗い未来ではなく明るい未来をスケッチしたいです。そして欲を言うならばいつか、自分の家が誰でも気楽に立ち寄って休める場所。いろいろなものを分かち合える場所。平和や幸せを実態として感じられる場所。自由気ままに過ごせる場所になったらいいなと思います。突拍子もない発言かもしれませんが、僕の中には神様がいます。僕の人生はこれに尽きると思います。これから何をするかなんてわかりません。今までの人生、出会った人々は神様なしでは実現しませんでした。愛農に入れたことも、こうして専攻科の道を歩みゴーバルの皆さんと出会えたことも全く想像していませんでした。これからもきっとそうです。詩編３７編に、「主は人の一歩一歩を定め御旨にかなう道を備えてくださる」と、約束してくれています。この４年間で確信に変わりました。だから、ぼくは神様にゆだねることに決めました。今年は、秋田の家に帰り、できることをしながら少しずつ考えることを選択しました。そしてまた自分探しの旅に出たいと思っています。はじめは、家に帰ることに対して恥ずかしい気持ちになったり、本当にこれでいいのかという不安感があったりしました。でも、その感情は人と比べて起こったものでした。皆さんに出会い、言葉をもらい、自分の学びや気づきとつなげて考えたとき、こうして神様の言葉に耳を傾けたとき、全然恥ずかしいことでもないんだと思いました。神様に寄り添いながら、理想の暮らしを描きながら、今をゆっくりと生きる。これが、ぼくの歩む道かもしれません。**